

Essay

Sapiarc.com

2010年1月31日 (2010-02)

みたび「電子書籍端末キンドル」について

一昨日書いたことへの追加をしておくことにする。

「ひとこと 10-01」を書き終わったころ、Amazon からメールが届き、キンドルで購入した本をパソコンで読むためのソフトウェア“Kindle for PC”を無料で供給するので、それをダウンロードすることを勧めてきた。直ぐにダウンロードしてみたところ、パソコンの画面上に自動的に“Kindle for PC”のショートカットが表示された。これを開くと、これまでに私がキンドルから購入した本のタイトルが画面に出てきて、それをダブルクリックすると、その本を読むことができる。

ノートパソコンの画面でもキンドルよりも大きいので、読みやすい。また、字の大きさを変えることもできる。パソコンに付属させている、A4判を実物大に見ることができる別の大きなディスプレイに表示させると、はるかに読みやすくなる。しかし、残念なことに辞書機能は付いていない。このための書籍データがどこから送られて来るのかはわからないが、パソコンのなかにデータが溜められるわけではない。その点で、送りこまれる書籍データが全部内蔵されるキンドルとは異なっている。このような違いはあるが、自宅で本を読むには、この方式を使うことには意味がありそうだ。Amazon としては、Apple の iPad に対抗するため、パソコンを味方に付けることを目論んだのだろう。

キンドルなどの電子書籍端末の利点は、少々本を買っても本棚が一杯にならないことである。これは、現代人にとってバカにできないことだと思う。近頃のように、新刊書が洪水のように出版される状況は、本好きの人には有り難いことだが、本がどんどん溜まって、置き場所がなくなって困っている人が多いのではないだろうか。古本屋に売っても、大した代価は得られない。Amazon などの古書販売機能を利用して、自分で売ることはできるかもしれないが、実際には面倒だ。最も良い解決法は、1500冊もの本を内蔵できるキンドルなどを利用することだと思うが、どうであろうか。（おわり）